

苫小牧地区保護司会 社会を明るくする運動メッセージ伝達

苫小牧地区保護司会の菅原正良会長は7月2日、役場を訪問し、内閣総理大臣名の「社会を明るくする運動」メッセージを伝えました。

臨時議会開催中のため、町長に代わり大坪秀幸理事が対応しました。職員が見守る中、菅原会長は額に入れた内閣総理大臣のメッセージを読み上げ、活動への理解と協力を呼びかけました。

これを受けて、大坪理事は安全・安心な社会を築くため、保護司会の皆さんの一層の支援と協力を願う町長のあいさつ文を代読しました。



役場庁舎の玄関ホールで内閣総理大臣のメッセージを伝える菅原さん(右)

厚真町森林再生・林業復興に係るシンポジウム 現状や課題などを学ぶ



森林再生について説明する
北海道大学大学院農学研究院の中村教授

町主催の厚真町森林再生・林業復興に係るシンポジウムが7月3日、総合福祉センターで開かれ、参加者約100人は北海道胆振東部地震で発生した崩壊地の森林再生などについて理解を深めました。

テーマは、「北海道胆振東部地震～自然災害からの森林再生と今後の対応について」。北海道大学大学院農学研究院の中村太士教授など6人が、地震発生以降の研究の一端を紹介。場所によっては、倒木から新たな芽が発芽する事例も紹介され、自然の力で森林を再生するエリアや計画的に植樹して森林を再生するエリアなど、場所ごとに森林再生手法を検討してはどうかという説明がなされました。

また、パネルディスカッションも行われ、町民などへの情報提供方法を工夫しながら今後の森林再生や林業の復興に向けて取り組むことなどが確認されました。宮坂町長は「時間はかかりますが、一日も早く、目指すゴールを皆さんにお示しすることが私たちの使命。被災森林再生に向けたきっかけにしたい」と語りました。

厚真町まちなか交流館 胆振総合振興局長表彰(食品衛生優良店舗)を受賞

特定非営利活動法人ゆうあいネットあつま(清水俊宣理事長)が運営する厚真町まちなか交流館が、今年度の食品衛生優良店舗として、胆振総合振興局長の表彰を受けました。6月の伝達式は新型コロナウイルス感染症の影響で中止になり、7月12日に賞状が贈られました。

苫小牧保健所の検査などを経て、徹底した衛生管理が評価されました。鏡のように磨かれたステンレス製の厨房の前で、館長の深澤稔宏さんは「食中毒を起こさないために、常に清潔を保つように心がけています。今後も衛生管理に努めます」と話し、理事長の清水さんは「スタッフ一同の日ごろの鍛錬の成果が認められてうれしいですね」と喜びました。



受賞を喜ぶ清水さんと深澤さん(左から)

特産ハスカップ 初収穫と初競り



持ち込まれたハスカップを検査する
JAとまこまい広域の職員

町特産のハスカップが6月23日初集荷され、304箱(1箱300g×4パック)が翌日、苫小牧市公設卸売市場で初競りにかけられました。

JAとまこまい広域によると、町内では今年24戸(前年比7戸減)がハスカップを生産し、13.5tの収穫目標を立てています。生育は順調でしたが、6月4日の暴風雨で枝が折れるなどの影響が出ました。

初集荷では、生産者が相次いで箱詰めしたハスカップを搬入しました。農協職員は、粒を確認しながら手際よく検査して検印を押し、5箱ずつ束ねて市場に持ち込みました。初競りでは、最高値で1パック1,500円(最大規格の特A大)の値段が付きました。

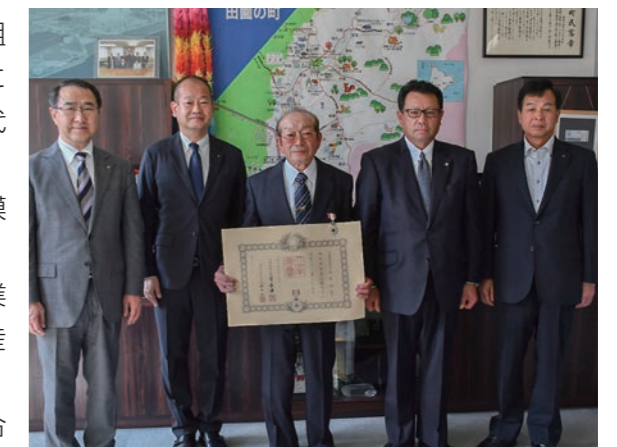
胆振総合振興局の谷内浩史局長は6月28日、町長室を訪ね、元JAとまこまい広域代表理事組合長の浅野勝善さん(宇隆)に令和3年春の叙勲の旭日単光章の受章を伝達しました。

浅野さんは、農業を営む傍ら平成10年4月に町農業協同組合代表理事組合長(当時)に就任し、その後も胆振東部6農協により「とまこまい広域農業協同組合」を発足させ、合併後も代表理事組合長として、農業生産の発展に尽力しました。

また、ブランド米「たんとうまい」を誕生させ、1万t規模のカントリーエレベーター(たんとうまいステーション)の建設、和牛振興、畜産経営基盤の確立などにも取り組み、北海道農業の振興に大きく貢献しました。平成18年3月には、北海道産業貢献賞を受賞しています。

伝達式には、宮坂町長、渡部議長、宮田組合長らも立ち合い、浅野さんの功績をたたえました。浅野さんは「農業の町だという姿勢を行政に持ってほしい、これからも自分にできることをしたいと思います。ありがとうございます」と受章を喜びました。

宇隆の浅野勝善さんに 旭日単光章を伝達



旭日単光章を受賞した浅野さん(中央)



梅原さんの説明に耳を傾ける参加者たち

表町公園でガーデニング講習会

町コミュニティ運動推進協議会(山下昌秀会長)は6月30日、表町公園の野外ステージでガーデニング講習会を開き、23人が受講しました。

有限会社梅原商店の梅原智哉さんが講師を務め、鉢への寄せ植えのコツを指導しました。受講者は、梅原さんの指導のもと、24種類の花の苗の中から5種類を選んで思いのままに寄せ植えし、自慢のひと鉢に仕上げました。受講者は「すてきな寄せ植えになったね」と互いに声を掛け合い、携帯電話で写真を撮り合いました。